

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	能越自動車道 一般国道470号 七尾氷見道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局												
起終点	自：石川県七尾市八幡 至：富山県氷見市大野	延長	28.1km														
事業概要	一般国道470号七尾氷見道路は、「高規格幹線道路網の形成」「災害に強いネットワークの形成」「アクセス時間の短縮による物流の活性化・観光圏域の拡大」「第三次医療施設へのアクセス向上」を主な目的とした延長28.1kmの事業である。																
H8年度事業化	H10-11年度都市計画決定	H13年度用地着手	H15年度工事着手														
全体事業費	約1,470億円	事業進捗率	74%	供用済延長：2.8km(暫定2車線)													
計画交通量	5,100～8,700台/日																
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 3.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 436 / 1,611 億円 事業費：333/1,498億円 維持管理費：103/113億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,683 / 1,890億円 走行時間短縮便益：1,470/1,640億円 走行経費減少便益：147/163億円 交通事故減少便益：66/87億円	基準年 平成23年													
感度分析の結果	<table border="0"> <tr> <td>(事業全体) 交通量</td> <td>: B/C= 1.1～1.2(交通量±10%)</td> <td>(残事業) 交通量</td> <td>: B/C= 3.6～4.3(交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>: B/C= 1.2～1.2(事業費±10%)</td> <td>事業費</td> <td>: B/C= 3.6～4.2(事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間</td> <td>: B/C= 1.2～1.2(事業期間±20%)</td> <td>事業期間</td> <td>: B/C= 3.8～3.9(事業期間±20%)</td> </tr> </table>					(事業全体) 交通量	: B/C= 1.1～1.2(交通量±10%)	(残事業) 交通量	: B/C= 3.6～4.3(交通量±10%)	事業費	: B/C= 1.2～1.2(事業費±10%)	事業費	: B/C= 3.6～4.2(事業費±10%)	事業期間	: B/C= 1.2～1.2(事業期間±20%)	事業期間	: B/C= 3.8～3.9(事業期間±20%)
(事業全体) 交通量	: B/C= 1.1～1.2(交通量±10%)	(残事業) 交通量	: B/C= 3.6～4.3(交通量±10%)														
事業費	: B/C= 1.2～1.2(事業費±10%)	事業費	: B/C= 3.6～4.2(事業費±10%)														
事業期間	: B/C= 1.2～1.2(事業期間±20%)	事業期間	: B/C= 3.8～3.9(事業期間±20%)														
事業の効果等	<p>①第一次緊急輸送道路の強化 ・災害に強い道路ネットワークが形成される。</p> <p>②通行規制区間の回避 ・並行区間である国道160号の通行規制区間が回避できる。</p> <p>③第三次医療施設へのアクセス向上 ・第三次医療施設（能登総合病院、厚生連高岡病院）へのアクセス向上が期待される。</p> <p>④北陸新幹線新高岡駅（仮称）へのアクセス向上 ・能登地域から富山県西部地域唯一の新幹線新駅である、北陸新幹線新高岡駅（仮称）へのアクセス向上が期待される。</p> <p>⑤主要な観光地へのアクセス向上 ・3大都市圏等から能登地域へのアクセス向上が期待される。 ・能登半島観光圏と越中・飛騨観光圏間の結びつきが強化され、観光客の増加による地域活性化が期待される。</p> <p>⑥農林水産品の流通利便性向上 ・庵、下佐々波漁港から北陸自動車道へのアクセス性と輸送の確実性が向上し、県内外への流通活性化が期待される。</p> <p>⑦重要港湾七尾港へのアクセス向上 ・小矢部・砺波JCTから七尾港へのアクセス性が向上し、海上輸送と陸上輸送とのネットワーク機能が強化される。</p>																
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見等：</p> <ul style="list-style-type: none"> 七尾氷見道路は、広域観光ルートの確立のため、また、能登半島地震を教訓とした災害に強い交通ネットワークの形成のため、能越自動車道建設促進期成同盟会から整備推進の要望を受けている。 																
県知事の意見	<p>県知事の意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業継続に同意する。 今後とも、コスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮を願いたい。 能越自動車道の日も早い全線供用が重要であることから、引き続き国直轄事業として事業を継続し、コスト縮減に努めつつ、着実に整備を進めていただきたい。 																
事業評価監視委員会の意見																	

・審議の結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・H22年度までに能越自動車道能登空港IC～穴水IC、徳田大津IC～田鶴浜IC、氷見北IC～福岡ICが供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：平成23年度末（予定）で事業費1,091億円、進捗率74%、そのうち用地補償費は174億円で進捗率99%。

残事業の内容：（仮称）七尾ICから氷見北ICの暫定2車線整備

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後は、平成23年度に（仮称）灘浦IC～氷見北IC間を、平成24年度に（仮称）七尾東IC～（仮称）大泊IC間を供用し、平成26年度の全線暫定2車線供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

施工にあたっては、新技術、建設発生土の有効活用等により、コスト縮減を図る。

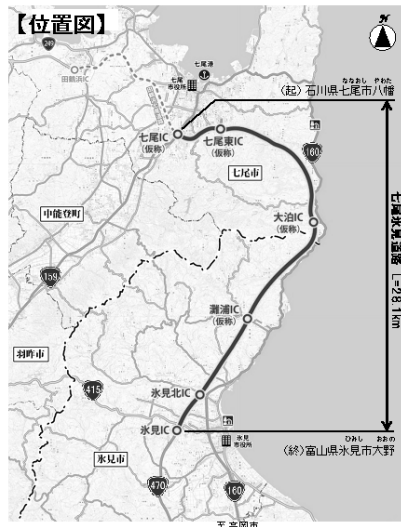
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。